



ふれあい支え合い助け合い

# いきいきネット通信

発行者 東海小・中学校区

小域福祉ネットワーク

会長 苺米 榮次

編集責任者 広報部長 庄司 宏

## 「1年を顧みて」

会長 苺米 榮次

東海・海上地区民の皆様方には、本小域福祉ネットワークの運営にあたり、ご理解ご協力及びご支援を頂き厚くお礼申し上げます。各々の部会活動並びに「いきいきセンター」の諸行事も概ね計画通り実施することができました。

地域において、子どもから高齢者までの安心安全のための見守り活動を一番の旨とした中で、新たに高齢者部会員を核として支援を必要とする高齢者に対し「安心訪問員」による活動が始まりました。利用者は若干名ですが、高齢化が進む状況下において潜在需要は多いと思われます。民生委員及び町会長との連携を密にし対応してまいりたいと考えております。

子ども達の見守りについては、今富地区の児童の登下校が路線バスの廃止に伴い徒歩となりました。保護者の不安や負担増が危惧されておりますので、このことについても目配り・気配りをいただければ幸いです。



## 安心生活見守り支援事業の現状

高齢者部会 鶴田 信行

近年、少子高齢化社会や核家族化が急速に進行し、地域の繋がりや希薄化など、地域社会そのものが大きく変化している中で、近隣との交流が少ない高齢者が孤立し、誰にも看取られることなく亡くなり、数日後発見されるといった孤立死が増加するなど、社会的問題となっております。

今後も、一人暮らしの高齢者や障がい者世帯は更に増加するものと推測され、地域で暮らす高齢者の方々が安心して自立した生活を送るためには、行政の提供する公的サービスはもちろんの事、地域の実情を把握している地域住民が中心となり「安心生活見守り活動」を展開して行く事が求められております。

東海・海上地区でも、高齢者・障がい者の一人暮らし世帯は若干でありますが増加傾向にあります。

東海・海上地区小域福祉ネットワークでも、平成28年度から「見守り支援運営委員会」を立ち上げ協議を重ねた結果、平成29年2月から安心生活見守り活動を開始しました。

安心訪問員28名は趣旨賛同者、民生・児童委員が主体で、見守り支援希望者10名を月1～2回程度伺って、健康状態等を確認しております。

現在のところ、特に問題は発生しておりません。

今後も、東海・海上地区の地域向上を図る上で、見守り支援希望者は上述の安心訪問員まで申し出て下さい。

この見守り支援運営委員会は座長：下川原・深見氏、副座長：廿五里・村井氏、上郷・霜崎氏の3名が中心となって進めております。

## 東海中学校避難所運営委員会設立と防災訓練について

海上地区町会長会会長 高澤 秀信

災害発生時に地区民が安全に避難し、地区民同士が連携しながら避難所を開設、運営を行う体制構築の為に、平成28年度、片岡海上地区町会長会会長の主導の下、地区内各町会長及び関係各位のご尽力によって、東海中学校避難所運営委員会が設立されました。

海上地区合同自主防災会合同訓練は、一昨年まで11月頃実施していましたが、昨年は市の防災訓練と同日に

避難所運営委員会設立後初の訓練を実施致しました。訓練には、東海中学校を避難所とする町田町会からも参加があり、合計129名の参加人数となりました。

訓練内容としては、避難所開設訓練として合同訓練開始放送により、各町会から訓練会場（東海中学校体育館）へ参集して、受付で避難者名簿の作成の為、住所、氏名を告げてから各町会ごとに割り振られた場所に着きます。

その後、応急救護訓練が地元消防団（五井支団第19分団・第20分団）の指導により、竹と毛布を利用して簡易担架を作ったり、また三角巾を利用して止血法の訓練なども行いました。

災害は、時と場所を選ばず、種類も多種多様であり、また想定外の事が起こることも考慮しなければならないと考えます。そのような観点から、訓練内容も定型的なものだけでなく、いろいろな状況を想定して変えることも必要だと思います。

今年も合同自主防災会合同訓練が行われると思います。自分自身と地域の方々の身の安全を守る訓練ですので、多数の参加をお願い致します。



## 青少年部会の活動

青少年部会長 森田 浩通

今年度の活動は、子供の健全育成の推進を図る事とし、登下校時における安全な見守り体制への取り組みを実施するとともに、児童との交流の場づくりの推進を図りました。

活動内容は、毎月第2水曜日、小学生の登下校時に『挨拶・声掛け運動（見守り、安全指導）』を、保護者・環境部会員等の皆様と行いました。児童との交流については、学校に協力していただき、全校児童参加によるサマースクール楽しい工作教室を7月24日に実施しました。清水教頭先生ご指導による『ストローロケット』を制作して、楽しく思い出に残る時間を過ごしました。1月18日には一年生とお正月の遊び・昔の遊びを体験しました。あやとり、けん玉、お手玉、はねつき、めんこ、竹とんぼ、コマ、ベーゴマ等を各班に分かれ、体育館と教室に用意された道具で、保護者や地域の皆さんに教わりながら楽しみました。子供も大人も夢中になり、世代を超えたつながりを深めた有意義な時間でした。

今後も、子ども達を地域全体で見守っていただけますようお願いします。



## 防災の基本

防災部会長 山越 照太郎

防災対策において、「自助」「共助」「公助」と言う考え方があります。これは、個人、地域、行政の役割分担を表し、なかでも、防災の基本は自助です。

自分を守ることによってこそ、家族や隣人を助けることができるのです。

自助の主な取り組みとしては、非常食の用意、自宅の耐震対策が極めて重要です。

阪神・淡路大震災では、地震発生直後の建物の倒壊や家具の転倒による圧死が死者全体の8割を超えました。耐震補強など対策を行っていれば、かなりの方が助かった筈です。

自宅の耐震補強となると費用も嵩みますし、面倒でついつい後回しとなりがちですが、まずは、できることからやってみましょう。

地震発生直後は、満足な救助活動が出来ません。救助や支援が受けられるまでの食料、飲料水を各家庭で最低3日分備蓄しておいて下さい。救急薬品もしかりです。

市では、市民が耐震対策を行う場合、個人負担5千円で木造住宅の耐震診断を行っています。

その結果、補強が必要となる木造建築物の耐震性能の向上を図る工事に対し、改修費用の一部を補助しています。

市の木造住宅耐震改修事業などを利用して、自宅の耐震性能を確保して下さい。なお、利用にあたっては、条件がありますので市に確認して下さい。

地震発生時に的確に対応するため、正しい防災知識を身に付けておくことは、すべての人に求められていることです、常に意識していきましょう。

東海・海上地区防犯協会の  
平成29年度活動状況に  
ついて  
環境部会長（防犯協会会長）  
小出 博司

東海・海上地区防犯協会は、  
地区の皆様方のご協力のおかげで5年目を迎えました。防  
犯協会の主な活動は次のとお  
りです。



1. 防犯意識の向上

（犯罪の抑止・被害防止の啓発活動・  
振り込め詐欺撲滅対策）

2. 防犯性向上の地区の形成

（防犯関係機関との連携による防犯パ  
トロール）（犯罪予防に関する協力）

3. 子育て家庭への支援

（小学校登下校時の「見り隊」「見守り  
あいさつ活動」実施）（警察との連携  
特に中村巡査長・廿五里駐在所）（青  
少年非行防止のための活動及び協力）



防犯協会は、「犯罪のない安全で安  
心して生活できるまちづくり」の実現  
のため、各種団体と連携し、地区住民  
の防犯意識の高揚を図り、効果的な防  
犯活動を推進し、犯罪の防止する中  
での防犯活動への取り組みを実施して  
します。

防犯指導員はグリーン帽子と「いき  
いきネット」名入黄色いベストの着用、  
青少年部会は赤いジャンパーを着用し、  
高齢者部会等とともに、小学校児童の登  
下校時「見守り隊」を7箇所の地区で実施し、特に児童  
の下校時刻に合わせて地域の皆様の「見守り活動」「お  
帰りなさいのあいさつ活動」を実施しました。



また、防犯協会会員の会議等を開催し、平成30年  
度の方針を作成しました。

東海・海上地区防犯協会は、今後も積極的に活動し  
ていきますので、皆様方のご協力を宜しく願いいた  
します。

## いきいきセンター活動報告

運営協議会会長 秋葉 茂樹

地区民の皆様には、平素よりいきいきセンター事業活動にご支援・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。また、運営協議会の運営にあたり各町会の皆様から助成金としてご支援をいただき、重ねてお礼申し上げます。

さて、今年度は6月と2月に田中はつ先生を講師に招き、お花作り教室（薔薇の花づくり）と牛乳パックを利用した和風小物作り教室など、手先を使う工作の事業を計画しました。参加された皆さんは、手先が器用な方達で、先生の指導により出来栄のよい作品を作ることができました。



また、ふるりの歴史講座を開催し、青柳至彦先生には7月に「海保の歴史を歩く」を題材とした、海保の城跡や大塚山の歴史についてを学び、12月には、「島野地区の島穴神社を中心として」を演題とし、郷土の歴史についてご講演をいただきました。この講座については皆様方から大変ご好評をいただいておりますので、今後も継続して実施したいと考えております。

事業の一環として実施しております輪投げ大会については、10月に地区対抗輪投げ大会を開催し、7地区の町会の皆様が参加し熱戦が繰り広げられ、その結果、優勝は引田地区、個人でも引田地区の方が優勝されました。

12月には恒例により実施しております輪投げ大会につきまして、今年初めてトーナメント方式を採用し、36名の個人戦を実施しました。例年になくエキサイティングな盛り上がりを見せ、その結果、野毛地区の安藤さんが優勝されました。以上で今年度事業もお蔭を持ちまして無事終了することができました。これもひとえに皆様方にご協力をいただいた結果だと存じます。

今後も「いきいき広場」において地区民の皆様が気軽に参加できるような事業を計画してまいります。



「いきいき広場」で開催された  
地域福祉事業に参加して  
いきいきネット総務局長 霜崎久史

昨年末に実施された輪投げ大会に参加しました。この大会は、数回実施されており参加者の皆さんは要領も承知しており技術もそれなりに長けておりました。

この輪投げ大会は、午後から第二部として開催されました。午前中の第一部では、市原市の郷土史研究家の野毛在住の青柳至彦様による島穴神社を中心とした、ふるさとの歴史についての講演がありました。

身近な島穴神社に関するもので、皆さん興味深く聞き入っておりました。私も大変勉強になりました。

輪投げ大会で印象に残ったのは、皆さんチーム(町会)のために頑張ろうと各々努力していること、特に、楽しく和気あいあいと競技しているところでした。

私も、参加させていただきましたが、簡単そうでな



かなか上手くいきませんでした。

5町会の地域の皆さんが団体戦に参加しておりましたが、楽しくコミュニケーションを図るには最高の場所であると思いました。



今後、益々多くの会員の皆様の参加により地域の和を大切に当初の目的である「軽スポーツの推進と地区民の交流」が達成できたら最高です。

会員皆様には、趣旨をご理解の上更なるご協力をお願いいたします。